

# 公共交通 メールマガジン

平成30年  
12月28日発行  
第63号

編集：国土交通省  
総合政策局公共交通政策部



平素より、当メールマガジンをご愛読いただきありがとうございます。  
今回は以下のラインナップでお送りいたします。



「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」の中間整理を行いました。

(総合政策局 公共交通政策部 交通計画課)



新たに5件の「地域連携サポートプラン」の協定を締結しました。

(近畿運輸局)



「地域公共交通シンポジウム in 中部」を開催しました。

(中部運輸局)



「第5回おでかけ交通博2018 in あきた」～みんなで「おでかけの足」を考えませんか～  
を開催しました！

(東北運輸局)

<掲示板>

☆ 地域公共交通支援センターについて

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」について

## 「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」の中間整理を行いました。

(総合政策局 公共交通政策部 交通計画課)

みなさま突然ですが、MaaSという言葉を知ったことがあるでしょうか？

MaaS（マース）とは、Mobility as a Serviceの略称で、移動をサービスとして捉える概念です。といっても、何を言っているのかわかりにくいので、このような場面を思い描いてみてください。

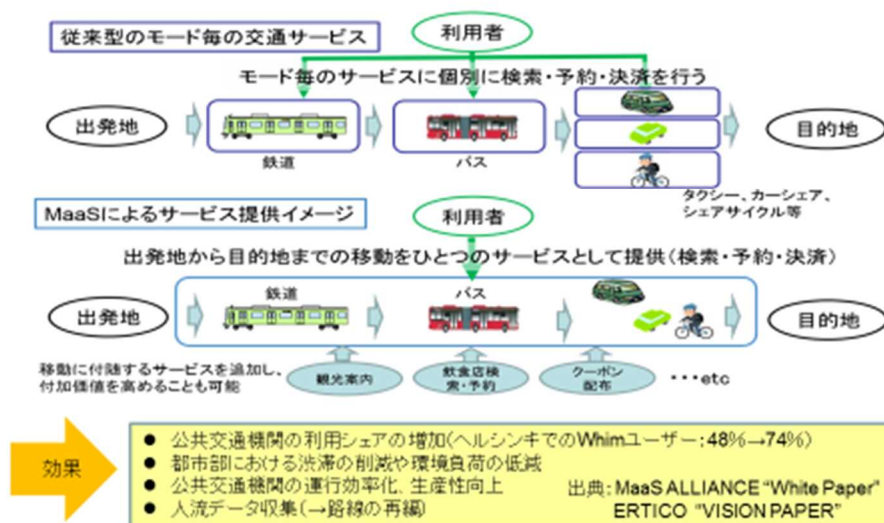
あなたは、お母さんの誕生日のために、プレゼントを買いたいと考えています。お店に行くためには、どのような交通手段を使って、どのように向かうのがいいでしょうか。それは鉄道かもしれませんし、バスかもしれません。あるいは晴れているので、自転車を借りてサイクリングするのもいいでしょう。そのような複数の移動手段について、検索をして、(自転車などを借りる)予約をして、(運賃などの)決済を、一度にできると便利ではないでしょうか。そして、それがプレゼントを売っているお店のクーポンなどと連動していたらなおさら！

MaaSの指し示すものはとても広いですが、例えばそのような社会を目指して、最近、日本を含めた世界中で取組が進んでいます。

### MaaSとは？

国土交通省

- MaaS: Mobility as a Service
- 出発地から目的地までの移動ニーズに対し、最適な移動手段に係る検索・予約・決済をスマホアプリでシームレスに実現。



さて、国土交通省公共交通政策部では、そのようなMaaSを含めた新しいモビリティの推進に取り組んでいます。具体的には、都市局と道路局と共同事務局で、平成30年10月に「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」を立ち上げました。懇談会では、学識経験者の方々に委員になっていただき、事業者間のデータ連携の促進、柔軟な運賃・料金の実現、まちづくり・インフラとの連携などについてご議論いただきました。また、この分野は民間の事業者などからどんどん先進的な取組が行われていることから、JR東日本、東急電鉄、小田急電鉄、みちのりホールディングス、JapanTaxi、ジョルダン、JT Bコミュニケーションデザイン、パーク24、東京都、関東鉄道及び筑波大学からもお話をうかがいました。そして、それまでの懇談会の議論を踏まえた中間整理を、12月13日(木)に行いました。

今後は、来年3月の中間とりまとめに向けて、さらなる議論を行っていきたいと思います。また、来年度には懇談会の議論を踏まえて、MaaSのモデルとなる実証実験に対する支援も行いたいです。これから

も MaaS について、注目してください！

「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」については、以下のホームページに掲載しております。

[http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei\\_transport\\_tk\\_000089.html](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000089.html)

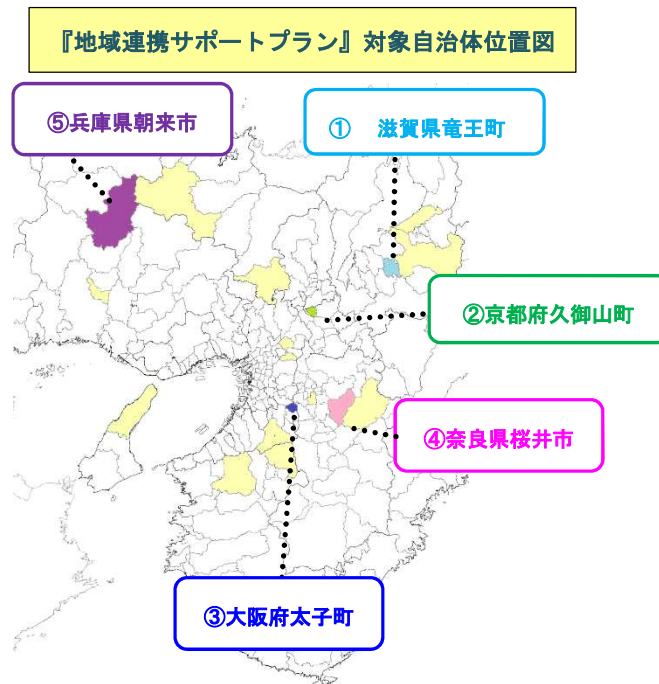
## 新たに5件の「地域連携サポートプラン」の協定を締結しました。

(近畿運輸局)

近畿運輸局では、平成28年度から、「地域連携サポートプラン」協定を締結した自治体と、地域公共交通の現状把握、意見交換等を進め、提案書を交付することにより地域公共交通に関する課題の解決を支援する取り組みを行っております（平成28年度は7自治体、平成29年度は6自治体（※））。

(※下記位置図で黄色の自治体)

今年度も引き続きこの取組を進めることとしており、5つの自治体と協定を締結し、提案書交付に向けた意見交換や課題整理に取り組んでおります。



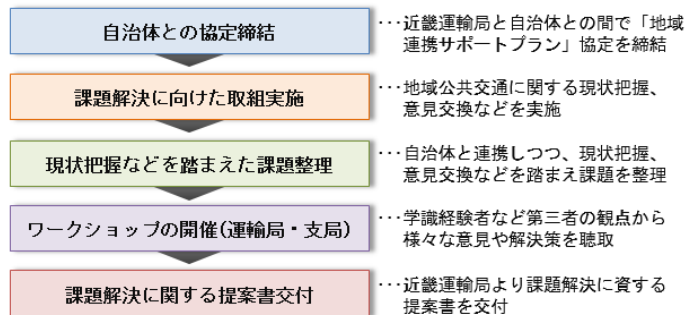
### 【今年度新たに協定を締結した自治体の主な課題】

- ① 滋賀県竜王町
  - ・ 竜王町にふさわしい多様なニーズに対応できる公共交通のあり方の検討
  - ・ 公共交通の利用、支援策（通学定期助成・夜間相乗りタクシー等）につながる取組の推進
- ② 京都府久御山町
  - ・ 「まちづくり」と整合性がとれた地域公共交通ネットワークの再構築
  - ・ 新規バス路線「クロスピアくみやま～松井山手駅」の利活用促進
- ③ 大阪府太子町
  - ・ 路線バスと福祉関係輸送サービスの役割の整理
  - ・ 交通結節点となる拠点の整備
- ④ 奈良県桜井市
  - ・ 市内に点在する豊富な観光資源への公共交通のアクセス・情報充実
  - ・ 利用実態に応じたコミュニティバスの効率的な運行
- ⑤ 兵庫県朝来市
  - ・ 人口確保対策やまちづくりなど市の重点施策をふまえた公共交通の見直し

「地域連携サポートプラン」の概要は、以下のホームページに掲載しております。

<https://www.tb.mlit.go.jp/kinki/kansai/program/supportplan.html>

### 『地域連携サポートプラン』の進め方



締結式の様子  
(大阪府太子町)



意見交換の様子  
(京都府久御山町)



現地調査の様子  
(奈良県桜井市)



## 「地域公共交通シンポジウム in 中部」を開催しました。

(中部運輸局)

中部運輸局では、平成30年11月2日(金)に、東建ホール・丸の内(愛知県名古屋市)において、「地域公共交通シンポジウム in 中部」を開催しました。このシンポジウムは、『はじまっています!つながる社会 「移動を未来へつなぐ」』をテーマに、人口減少社会を迎えて、公共交通が大きな岐路に立たされている中、困難な時代だからこそ未来に向かって大きな変革を迎え入れるチャンスの時期ととらえ「つながる」ことで「進化」する新たな公共交通の姿を考えることをコンセプトとしました。

当日は、自治体の交通担当者や交通事業者の他、自治体の都市計画担当者、IT業界やシンクタンク等、188人の方にご来場いただきました。



石澤局長による開会挨拶

### 【基調講演】「公共交通の役割—まちと人をつなぐ—」

大阪大学特任教授 土井 勉 氏

基調講演では、人口減少社会の中での公共交通の役割について大阪大学の土井教授にご講演いただきました。講演の中で、利用交通手段の転換や利用者側の意識の変化、自動車だけに頼らない価値観、潜在化する『愉しみ』のための交通や目的をきちんと持って地域にふさわしい仕組みを作ることなどの重要性について、具体的な事例を交えながら紹介していただきました。



大阪大学 土井氏

### 【講演】「MaaS でつなぐ未来の公共交通」

東京大学大学院 藤垣 洋平 氏

講演では、「MaaS」とはどのような考え方なのかを東京大学の藤垣氏に分かりやすく紹介していただきました。さまざまな捉えられ方がされている「MaaS」について、概念を整理し、各交通モードの適材適所での活用、利用者の特性や達成される状況で移動を考慮することや地図ベースでなく人の生活シーンの視点で考える計画の重要性などについて、分かりやすく解説していただきました。



東京大学 藤垣氏

### 【パネルディスカッション】

パネルディスカッションでは、事業者の枠を超えた運輸施策やダイヤ施策を推進している京都バス株式会社の児玉健氏、自らコミュニティバスの時刻表データなどのオープン化を進め、公共交通を利用しやすくした中津川市の柘植良吾氏、利用者にわかりやすい路線図・時刻表の作成などを通じて公共交通利用



京都バス 児玉氏



中津川市 柘植氏

の難しさ解消に取り組んでいる公共交通利用促進ネットワークの伊藤浩之氏を迎え、自己紹介を含めた活動内容の紹介の後、それぞれの立場の関係者が「つながる」ことで得られるメリットや解消すべき課題を議論しました。また、東京大学生産技術研究所助教の伊藤昌毅氏にも急遽登壇いただき、公共交通のオープンデータ化の現状について解説いただきました。



公共交通利用促進ネットワーク  
伊藤氏



東京大学 伊藤氏

パネルディスカッション後半では、自治体がデータを整備する上での課題のほか、利用者、事業者、行政の望ましい関係構築や、公共交通のオープンデータの可能性などについて活発な意見交換が行われ、終盤のパネリスト間での質疑応答も含め、それぞれの立場の本音を聞くことができました。



パネルディスカッションの様子



個別相談会の様子

#### 【個別相談会】

シンポジウム終了後には、自治体や事業者の方が抱える具体的な問題に対応すべく個別相談会を実施しました。自治体を中心に計画策定や2次交通に関する質問が寄せられ、個別ブースに分かれて本局・支局職員との質疑応答が行われました。

なお、当日の講演資料やアンケート結果については、下記の中部運輸局ホームページに掲載し、シンポジウムの様子はYouTubeにアップしております。(記録用動画のため、音声小さくイヤホン推奨です。)

《講演資料・アンケート》

<http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/index.html#a4>

《youtube》(動画開始時分の目安) <https://www.youtube.com/watch?v=JUnr67m0ToI&feature=youtu.be>

◇基調講演 土井先生 16:45～ ◇講演 藤垣氏 1:11:49～ ◇パネルディスカッション 1:57:43～  
・ 柘植氏 1:57:43～ ・ 伊藤氏 2:13:33～ ・ 児玉氏 2:27:01～ ・ 伊藤先生 3:04:56～

中部運輸局では、今後もシンポジウムなどの機会を通じて、地域公共交通の課題や期待される将来像について広く共有するとともに、交通に関する施策の推進に取り組んで参ります。



熱心に講演に耳を傾ける聴講者



**「第5回おでかけ交通博2018 in あきた」  
～みんなで「おでかけの足」を考えませんか～を開催しました！**

(東北運輸局)

東北運輸局交通政策部交通企画課では、平成30年11月9日(金)に秋田ビューホテルにおいて「第5回おでかけ交通博2018 in あきた」～みんなで「おでかけの足」を考えませんか～を開催しました。  
(共催：秋田県 協力：福島大学)

「おでかけ交通博」は、主に地方公共団体の交通担当者や交通事業者を対象として、喫緊の課題である地域の「おでかけの足」について考えるきっかけとするべく平成27年より開始し、今回で5回目(福島、弘前、山形、北上で過去開催)の開催となり、約200名の方に参加いただきました。



パネルディスカッションの様子

午前中は有識者を招いたパネルディスカッションを行い、福島大学・吉田准教授にコーディネーターを務めていただき、パネリストとしては、開催地からは秋田県庁及び五城目町役場、そして東北地方で活躍されている有識者「地域公共交通東北仕事人」の皆様にご発言をいただきました。

午後には自治体や交通事業者などの25団体に出展いただき、ポスターセッションを実施しました。各団体から1分間で取組をPRしていただき、その後、取組をまとめたポスターや資料により、それぞれの取組について説明いただきました。参加者には、興味関心のある団体の取組について、質疑応答を交えながら担当者より詳細を伺っていただきました。



ポスターセッションの様子

また、翌10日(土)にはエクスカーションを開催し、希望者による由利高原鉄道等の視察を行いました。由利高原鉄道では、列車アテンダントが乗務する「まごころ列車」を運行しており、この平成30年7月からは、鳥海おもちゃ列車「なかよしこよし」の運行も新たに開始しました。今回は羽後本荘駅～矢島駅間を往復し、「まごころ列車」と「なかよしこよし」を視察しました。また矢島駅では、春田社長より由利高原鉄道の事業概要等についてご説明いただきました。



「おぼこ」姿のアテンダントによる説明



春田社長による概要説明（矢島駅）

今年も多数の方に参加いただきました。次年度以降においても、地域の交通への取組を後押しする機会を提供していきます。

「んだッチ」と「のりたろう」のコラボ！



お出迎えとお見送りにご活躍いただきました！  
ありがとうございます！

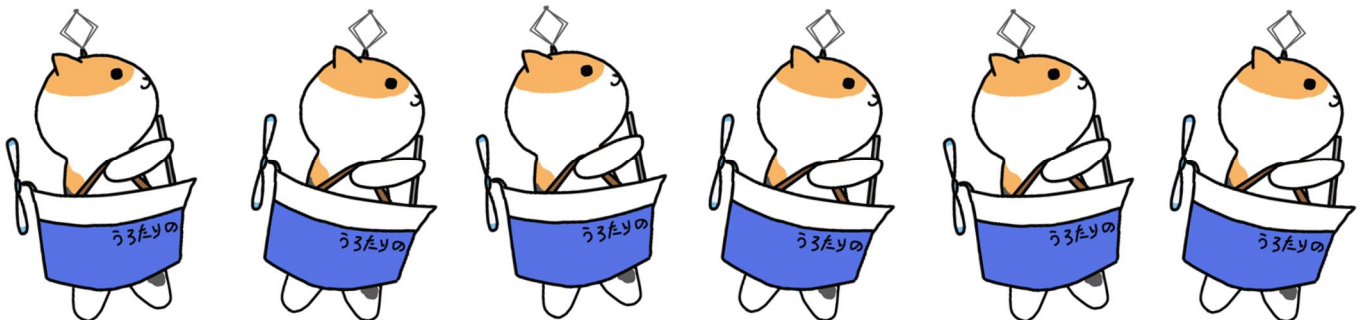
※「んだッチ」って？

あきたPRキャプテン「んだッチ」

近未来から秋田をPRするためにやって来た、なまはげ型の子どもロボットです。

平成27年11月24日から秋田県PRキャラクター「んだッチ」として活動を開始しました。

平成30年4月1日には秋田県職員に採用され、「あきたPRキャプテン」として県内外で元気いっぱい活動しています！



## < 掲 示 板 >

### ☆ 地域公共交通支援センター

公共交通政策部では、市町村をはじめとする各地域の関係者が、地域公共交通の確保・維持に取り組む際に有効に活用いただくため、全国各地における様々な先進事例（約300事例）を蓄積している「地域公共交通支援センター」を運用しております。

「地域公共交通支援センター」は、地域、人口、交通モード等により、先進事例を検索することも可能となっております。是非ご活用下さい。

<地域公共交通支援センター> <http://koutsu-shien-center.jp/index.html>

### ☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」

公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」（以下「キャラクター」という。）は、公共交通の利用促進について、より効果的な広報・啓発を行うことを目的としております。

キャラクターの使用を希望される場合、地方運輸局交通政策部交通企画課までお問い合わせ下さい。申請手続きについてご案内致します。

なお、「地域公共交通支援センター」においても、キャラクターの申請手続き、使用方法、FAQをご案内しております。

#### 公共交通利用促進キャラクター のりたろう



大好きな公共交通機関で働くことを夢見ていたが、ネコでは単独で乗り降りができないことから一念発起。自らが新たなハイブリッド公共交通機関に進化することで夢を実現し、現在は利用促進PRの先頭に立って活動している。

駅長を務めるなど活躍中の仲間達を同じネコとして尊敬しており、いつか会って公共交通について熱く語り合いたいと思っている。

- ・移動手段は「ネコ足歩行」
- ・自由に移動できるが、疲れてしまうので 100 歩ごとに休憩が必要
- ・乗車可能人数は運転士（のりたろう本人）を含めて 1 名のみ！

読者の皆様からのご要望や全国に共有したい情報等がございましたら、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

#### 【お問い合わせ先】

国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 石橋

〒100-8918

東京都千代田区霞が関2-1-3（中央合同庁舎3号館3階）

TEL：03-5253-8275（直通）

FAX：03-5253-1513

E-mail: [koutsukeikaku\\_joho@mlit.go.jp](mailto:koutsukeikaku_joho@mlit.go.jp)

#### ★国土交通省HP（情報発信のページ）

[http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei\\_transport\\_tk\\_000039.html](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html)

